

六^む連^{れん}銭^{せん}

平成12年12月31日発行

〒381-1231 長野市松代町松代4-1 (真田宝物館)



旧白井家表門
オープニングセレモニー

旧白井家表門での ボランティア活動

旧白井家表門は、弘化3年（1846）に建てられたもので、松代藩の中級武士の住宅の門でした。間口が二十メートルある三間一戸門形式の長屋門です。昭和49年に長野市の指定文化財になりました。もともと松代町表柴町にありましたが、維持が困難になったため都市計画街路内に移築復元することになったのです。そして、平成12年現在地に移築復元がされました。旧白井家表門の周辺には真田邸・文武学校などがあり全国からたくさんのお客さんが訪れます。旧白井家表門は休憩所として、また人々が利用できる文化財として整備されました。ここで活躍しているのが松代文化財ボランティアです。松代藩文化施設管理事務所では平成9年度に文化庁から「文化財愛護活動推進方策研究」の委嘱をうけてボランティアの養成を行ってきました。真田宝物館の展示解説にとどまらず、松代の文化財を広く紹介し後世に伝えていく人々の人材育成に主眼を置いてきました。現在一〇名ほどの登録があります。

松代文化財ボランティアの活動内容は大きく3つに分かれています。真田宝物

館の展示を説明する展示ガイドボランティア、松代町内の文化財を調査し保存する文化財調査ボランティア、来外者に対して松代町を総合的に案内する町内ガイドボランティアがあります。旧白井家表門では、主に町内ガイドボランティアが活躍しています。

活動内容と成果

旧白井家表門では様々な活動を行っています。主に、周辺文化財の案内や湯茶の接待などを通して観光客の人達と交流しています。観光で来ただけではわからない、松代の良さや見所をご案内しています。

今まで松代は年間13万人の観光客を抱えていても、観光客と地域住民は接点がありませんでした。観光客はただ、施設を見て帰って行ってしまいました。それだけで本当の松代を知ってもらえるはずがありません。旧白井家表門での活動で地元ボランティアと観光客とが交流し、心のふれあう場が生まれたといつて良い

でしょう。この活動では、ただ松代を紹介するだけでなく、人と人のつながりを実感することができます。

旧白井家表門の活動を大きく分けると次のようになります。

① 真田邸・文武学校・象山地下壕・松代城の案内

現在、ご案内している場所は主に真田邸・文武学校・象山地下壕・松代城です。現地でもわかりやすくご説明しています。真田邸や文武学校の室内へいっしょに入り、当時の様子が伝わるよう実感のこもつ



② 旧白井家表門での案内

たご説明をしています。周辺文化財のご案内を始めて1年です。まだ、旧白井家表門周辺の史跡しかご案内していませんが、ゆくゆくは松代町内に点在する史跡のご案内もしていく予定です。

無料休憩所として開放し、来客者に対して湯茶の接待をしています。いっしょにお茶を飲みながら談笑し、松代のご案内をしています。時には持ち寄りで自家製の漬物やジャムなどを振る舞っています。それだけではなく、真田邸で梅が実ったらボランティアで収穫し、梅漬けを作つてご馳走します。その他にも大根漬けや杏漬けなど、季節の収穫物をボランティアで手を加え、観光客に振る舞い大変喜ばれています。

お話しの中から松代の文化財に興味を持ってくださって、話題になった場所に行く予定ではなかったが行ってみる、もう一度松代に来たいと言う声がたくさん聞こえてきました。

③ 旧白井家表門およびその周辺の美化

旧白井家表門の庭には木が植えられているものの、殺風景でした。石で順路を作ったり、竹垣を作ったりして、小さなすてきなお庭にしました。門の周囲に草が生えているのを、手が空いた時に刈つ

たりして、美化に努めました。

④ 季節の行事

春にはおもちつき大会を開き、周辺の子供たちを中心に多くの人達に参加していただきました。石臼でもち米をつき手で丸め、昔ながらの方法でおもちつきをしました。また、梅漬けや杏漬けなどをして、季節の食べ物を楽しみました。

七夕には門に笹を立てかけ、皆で短冊に願いごとを書きました。訪れるお客さんにも願い事を書いてもらいました。冬には門前に門松を作って飾ります。

このように、田白井家表門での活動はとても季節感のある温かいものです。来外者に松代の文化財をただご案内するだけでなく、心のこもった応対をしています。人と人とのつながりを大切にして、
 本当の松代をご紹介します。

今までで30通ほどのお礼状が届いています。まだ旧白井家表門の活動が始まって1年足らず、すごい反響といえるでしょう。この活動は無限に可能性が広がっています。今後の活動もご期待ください。

主 要 行 事

4月22日 オープニングセレモニー・もちつき大会

6月2日 真田邸の小梅収穫・梅漬け

6月15日 真田邸の小梅収穫・梅漬け

(第2弾)

7月10日 杏漬け

10月7・8・9日 真田祭での湯茶の接待

10月19日 干し柿作り

11月19日 大根漬け



▲干し柿づくりの風景

冬を間近かにひかえに
穏やかな晩秋の一日はじめて

松代を訪ねました

先日、文武学校を訪れた際は、この丁寧な解説をして頂き、有難うございました。由緒ある建物の数々、又教育に力と注がれた松代藩の気合が感じられ、よいところを見学させて頂いたと喜んでおります。

又、心暖まる茶の接待。その上、復りたてのお野菜まで頂き、ほんとうによい旅の思い出となりました。おいしくいただきました。長野の方は一段と寒さか厳しくなると思ひますが、益々お元気で解説のお仕事頑張ってください。

先づは、左、右、礼申し上げます。（十月十九日、男三人、女三人で）

(十月十日 男三人 女三人で訪れた者です)

まだ一ヶ月の残る今日（九月十七日）
はじめて松代へ行き真田宝物館真田邸・
文武学校と三ヶ所を格安の五〇〇円で
見まわすありんとうふさぎました。
真田家も十代（三五年）も長きにわたる
つづき。十代藩主のさまたけを生きた
とくか問見るに、さき面白くない。
一番ふりかたは、無料休憩所であつた。
お茶と梅干しとふちうになつたこと。
梅干しは売らなかつた。さき、御礼。

▲ボランティア宛ての礼状

資料紹介

「松竹梅・鶴亀之図」

屏風は部屋を仕切るために使われ、あわせて部屋の装飾としても楽しまれました。

「松竹梅・鶴亀之図」は六曲一双です。左隻右隻ともに、梅の花咲く下を鶴が五羽ずつ悠々と歩き、その足元には亀がのんびり遊んでいます。しつとりと落着いた、見るものを安心させるような屏風です。

この屏風を描いた鈴木守一は、酒井抱一とともに琳派を江戸に定着させた鈴木其一の息子です。この屏風には「静々守一」とサインがされています。

真田宝物館には三〇点ほどの屏風があります。真田家によって購入されたと思われるもの、襖絵などを屏風として仕立て直したもの、その他に婚礼の際に持ち込まれたと考えられるものがあります。

婚礼の際に持ち込まれる屏風は、鶴・亀や寿老人などおめでたい図柄が描かれています。このような屏風は多くありますが、誰の持出品なのかわかるのとはほとんどありません。屏風に限らず、真田宝物館内にある婚礼道具も誰が使用したものなのかわかるものはほんの一部です。

持ち主を知る手がかりとして、家紋や箱書、後の整理による後筆などがあります。

その一つが、後の整理によってつけられたと思われる、奥方を示す印です。幸良夫人（貞松院）は鯉印、幸教夫人（真晴院）は南天印、幸民夫人（真浄院）は桐印、幸正夫人（澄子）は米印が箱に墨書されています。

「松竹梅・鶴亀之図」には十代藩主・真田幸民夫人の印である桐印が箱に書かれています。このことから、幸民夫人（真浄院）が結婚した際に持込んだものであることがわかります。真浄院は、幸民の先妻が明治三十二年に亡くなった後、九州の島津家からお嫁入りします。幸民は明治三十六年に五十四歳で亡くなるので、四年間の短い夫婦生活でした。

この屏風は、真浄院の人生の一部を私達に伝えてくれる貴重な資料です。

（文責・利根川淳子）

